

令和5年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会事業計画

新たな一次産品の創出に向けた農産物の 試作支援

2

予算額：100,000円

計画の位置付：P.41【重点】(1)藤沢ブランドの創出（ア 藤沢ブランドとなる新たな一次産品の創出）

目標：かながわブランドへの登録 1件

- ▶ 「茅ヶ崎のトルコナス」や「菜速あやせコーン」の事例を参考に、地域の特性を活かした藤沢ブランドとなる新たな一次産品の候補として、生産者が戸別に生産している農産物の組織的な生産を支援します。
- ▶ SDGsの視点を念頭に、「飲食物+a」の価値を創出し、消費者に選ばれる一次産品の創出を目指します。



茅ヶ崎のトルコナス



菜速あやせコーン



容器包装類等の作成を支援し、ネーミングやパッケージでも「藤沢産」をPRします



未利用魚を活用した加工品の開発支援及び学校給食での活用検討

予算額：150,000円

計画の位置付：P.41【重点】(1)藤沢ブランドの創出（イ 藤沢産農水産物を利用した加工品の開発支援、ウ 未利用魚の認知度向上）

P.43【重点】(2)藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化（イ 藤沢産農水産物等の利用促進）

目標：新たに開発し加工品の学校給食での活用

- ▶ 県水産技術センターの助言及び漁業者・加工業者等との検討結果に基づき、容器包装類の作成費用を実行委員会予算で負担するなど、加工品開発を支援します。
- ▶ 藤沢の水産物を学校給食で活用することにより、地域の水産業の理解及び食育の促進を図ります。
- ▶ 価値が乏しい未利用魚を活用することにより、食品ロス解消や付加価値向上を図ります。



未利用魚（イワシ、小シイラなど）

すり身・そぼろ・フィレ・煮干しなど、学校給食で活用するための加工等を検討。

6次産業化の取組を推進し、加工品開発を支援。
【参考】平成25年に小田原の魚ブランド化・消費拡大協議会が神奈川県水産技術センターに委託をし、開発をした未利用・低利用の魚（カマス）を活用した「北条一本ぬきカマス（通称かます棒）」



特定給食施設での藤沢産米の利用促進

5

【新規】

予算額：200,000円

計画の位置付：P.43【重点(2)藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化(ア 藤沢産米の利用促進)

目標：特定給食施設での藤沢産米利用 60t

- ▶ 恒常的に販売価格が生産費を下回っている藤沢産米について、水田の耕作放棄に伴う多面的機能（洪水調整、景観保護、生物多様性確保など）を喪失を予防するために、新たな販路を開拓します。
- ▶ 市内の特定給食施設（298施設）に対し、藤沢産米をPRします。
- ▶ 利用に前向きな施設に対してサンプルを提供し、藤沢産米の美味しさを実感してもらいます。
- ▶ 藤沢産米に給食が提供される際には、食堂においてパネル展示等を実施し、地産地消をPRします。
- ▶ 米以外の農水産物についても、機会を捉えてPRします。

小学校でのふりふりバター体験事業 保育園児との交流に係る講師謝礼【拡充】

予算額：60,000円【ふりふりバター体験事業分】
計画の位置付：P.43【重点(2)藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化(ウ 生産者等との交流による藤沢産農水産物等への理解促進)】

予算額：40,000円【保育園児との交流分】
計画の位置付：P.43【重点(2)藤沢産農水産物等の学校・保育園給食供給強化(ウ 生産者等との交流による藤沢産農水産物等への理解促進、オ 学校・保育園周辺で生産されている農産物の活用)】
目標：生産者と交流した保育園児数 54名（前年度の倍）

- ▶ 市内小学校において、市内で搾乳された牛乳等を使用したバターづくり体験事業を実施し、市内畜産業への理解促進、地産地消及び食育の推進を図ります。
- ※同日にやまゆりポーク生産者協議会と連携して畜産の授業も実施予定。
- ▶ 保育園周辺で生産されている農産物を給食へ供給する際に、生産者と保育園児の交流機会を設け、地域農水産業の理解促進及び食育の推進を図ります。



R4 実施状況

地産地消イベント事業 オーガニックマルシェ、元気バザール、サンセットマルシェ

予算額：300,000円【オーガニックマルシェ分】

計画の位置付：P.47【重点】(3)地産地消の普及啓発・食育施策等との連携強化（ア
新しい生活様式に応じた藤沢産農水産物等を活用したイベント・講座の開催）

目標：来場者数 628名（前年度の120%）

予算額：120,000円【ふじさわ元気バザール、サンセットマルシェ分】

計画の位置付：P.47【重点】(3)地産地消の普及啓発・食育施策等との連携強化（ア
新しい生活様式に応じた藤沢産農水産物等を活用したイベント・講座の開催）

- ▶ 国が示す「みどりの食料システム戦略」において、2050年までに耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%に拡大することを目標にしており、本市においても「第2次藤沢市都市農業振興基本計画」を今年3月に策定し、本市においても同様に拡大することを目標に設定したことから、有機農業に着目したイベント開催します。
 - ◆開催予定日 2023年11月23日（木）勤労感謝の日
 - ◆開催予定場所 辻堂神台公園
 - ◆イベント内容 有機野菜の直売、体験型イベントの企画
- ▶ 奇数月第2土曜日に藤沢駅北口で開催されている「ふじさわ元気バザール」や毎週水曜日・金曜日に藤沢市役所サンセット広場で開催されている「藤沢産サンセットマルシェ」の中で、藤沢産農水産物のPRを行います。

花育体験イベント事業 PR用花き等購入費

予算額：100,000円【花育体験イベント事業】

計画の位置付：P.47【重点(3)地産地消の普及啓発・食育施策等との連携強化（ア 新しい生活様式に応じた藤沢産農水産物等を活用したイベント・講座の開催、イ 生産者と消費者の交流イベント等の開催）】

予算額：100,000円【PR用花き等購入費】

計画の位置付：P.47【重点(3)地産地消の普及啓発・食育施策等との連携強化（ア 新しい生活様式に応じた藤沢産農水産物等を活用したイベント・講座の開催）】

目標：市役所本庁舎以外での展示。花き以外の農産物の展示。

- ▶ 子どもを対象に花の寄せ植え体験を実施し、寄せ植え体験と生産者との交流を通じて、藤沢の花きに対する知識や理解を深めてもらうことにより地産地消の推進を図ります。
- ▶ 市役所本庁舎等において、季節の藤沢産花きや農産物を展示し、PRを行います。



開催の様子



展示の様子

ロゴマークシールとSNSを活用した 「藤沢産」の認知度向上【新規】

予算額：50,000円

計画の位置付：P.47【重点】(3)地産地消の普及啓発・食育施策等との連携強化（才 藤沢産農水産物等の表示）

目標：藤沢産ロゴマークの認知度 44.56%

- ▶ 「藤沢産」ロゴマークシールの貼られた農水産物の写真をInstagramに投稿していただいた方に、抽選で藤沢産農水産物及び加工品をプレゼントします。

実施期間 10月～11月（地産地消推進月間）

実施方法 ・おいしい藤沢産Instagramをフォローする。

・ #おいしい藤沢産を付けて投稿する。

・ 「藤沢産」ロゴマークシールの貼られた農水産物の写真を投稿する。

・ 実施期間内に上記条件を満たす投稿をした方（抽選10名）に藤沢産農水産物及び加工品をプレゼント！



動画・PVの作成

予算額：100,000円

計画の位置付：P.51【長期】(1)藤沢産農水産物の付加価値向上に取り組む施策（ウ）藤沢産農水産物等のおいしい・旬の普及啓発・情報提供（ウ）「おいしい藤沢産」ホームページ等での情報発信

目標：動画投稿本数10本。総動画再生回数10,000回。

- ▶ 昨年度開設したYouTubeチャンネル「おいしい藤沢産TV」へ新たな動画を投稿し、藤沢産農産物の『旬』『生産者のこだわり』『美味しい調理方法』を紹介することにより、地産地消の取り組みを推進します。
- ▶ 事務局職員が撮影を行うなどして、コスト削減を図ります。
- ▶ 事務局PCは、WEBフィルタリングの規制があるほか、アプリケーションのインストールが不可であるため、編集作業は専門業者へ委託します。
- ▶ 藤沢産利用推進店のPVを作成し、認証制度のインセンティブとします。

◆動画企画案◆

タイトル：「藤沢産利用推進店の紹介」

構成：オープニング～店舗紹介～インタビュー～エンディング（1分程度に短くまとめる）

藤沢産利用推進店PR用「食べ歩きマップ」の作成

予算額：150,000円

計画の位置付：P.49【長期】(1)藤沢産農水産物の付加価値向上に取り組む施策（工 藤沢産農水産物等の需要拡大・供給強化（ア） 藤沢産利用推進店の充実）

- ▶ 「食べ歩きマップ」を増刷し、藤沢市内の駅やホテル等に配架してもらい、藤沢産利用推進店のPRを行います。
- ▶ 「食べ歩きマップ」は英語バージョンも作成します。

